

普通期 稲作情報 第1号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

田植時期の5月から6月にかけては、降水量は平年並みで推移し、田植が危ぶまれた地域もなく、田植えは終了しました。今後、雑草対策や水管理に留意しましょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低 20% 並 30% 高 50% 平年よりかなり高い見込み	少 50% 並 30% 多 20% 平年より少ない見込み	少 20% 並 30% 多 50% 平年より多い見込み

(福岡管区気象台 平成30年7月2日発表抜粋)

1. 水 管 理

稲の活着後は間断かん水とし、分けつが株当たり20本程度確保できたら中干しを行ってください。

中干しの効果

- ① 土壌のガス抜きと酸素の供給により根の活性が増し、根腐れを防止します。
- ② 窒素吸収を抑制し、無効分けつを抑えます。
- ③ 根の生育が旺盛になり、倒伏が軽減されます。
- ④ 土壌が固まるため、収穫直前まで入水でき、籾の充実向上につながります。

中干し前に溝切りを行うと、水管理がスムーズに行えます。	
中干し開始の目安	1株当たり18～20本程度（田植え後25～30日程度）
中干しの期間	7日程度行います
中干しの程度	田面に小さな亀裂(小指くらい)が入る程度 生育不足の場合や水持ちの悪い田では、軽めに干しましょう 生育過剰の場合や排水不良の田では、強めに干しましょう
中干し終了後	急に溜め水をすると根を傷めます。間断かん水か飽水(ひたひた水)管理をしてください

2. 病虫害防除

★海外飛来性害虫

病虫害では、セジロウンカ(夏ウンカ)とコブノメイガの発生は少ない状況です。病虫害防除所の予察情報では、セジロウンカは少なく、トビイロウンカ(秋ウンカ)はやや少ないと予報されています。

★病害

気温が高く、雨が少ないため、いもち病はほとんど認められていません。しかし、いもち病の発生しやすいほ場は(昨年多発生したほ場、冷や水が入るほ場、日陰の多いほ場、野菜跡などの窒素が効いて軟弱な生育のほ場等)引き続き発生状況に注意しましょう。

紋枯病については、高温条件で発生しやすいため、昨年、発生したほ場では「モンガリット粒剤(3～4kg)収穫45日前まで」による防除を行ってください。

<補正防除剤>

薬剤名	散布量 (10aあたり)	散布時期	使用上の注意
コラトップ豆つぶ	250g	・葉いもち 初発 10 日前～初発時 ・穂いもち 出穂 30 日前～5 日前まで	・夢つくし ・つくしろまん ・元気つくし は、いもち病に弱いので、 葉いもちを発見しだい、早急に 防除を実施するようにしましょう。
ノンブラスフロアブル	1000 倍	発生初期 (収穫7日前まで)	
ビーム粉剤 DL	3～4kg	発生初期 (収穫 7 日前まで)	

3. 除草対策

雑草が残っているほ場では、下記の薬剤を散布してください。

対象雑草	薬剤名	10a 当たりの 使用薬量	10a 当たりの 希釈数量	使用時期
広葉 ホタルイ、カヤツリグサ等	バサグラン (Na)液剤	700ml	100ℓ 落水散布	移植後15日～55日 (収穫50日前まで)
ノビエ、アゼガヤ キシウスズメノヒエ	クリンチャー EW	100ml (展着剤加用)	100ℓ 落水散布	移植後20日～ ノビエ6葉期まで (収穫30日前まで)
ノビエ、アゼガヤ キシウスズメノヒエ	クリンチャー 1キロ粒剤	1.0kg	湛水散布	移植後7日～ ノビエ5葉期 (収穫30日前まで)
		1.5kg		移植後25日～ ノビエ5葉期 (収穫30日前まで)
ノビエ	クリンチャー ジャンボ	20パック (1.0kg)		移植後7日～ ノビエ4葉期まで (収穫40日前まで)
		30パック (1.5kg)		移植後25日～ ノビエ4葉期まで (収穫40日前まで)
ノビエ、広葉、 カヤツリグサ	クリンチャーバス ME液剤	1000ml	100ℓ 落水散布	移植後15日～ ノビエ5葉期まで(収 穫50日前まで)
	ワイドアタックSC	100ml	100ℓ 落水散布	移植後20日(稲5葉 期以降)～ ノビエ5葉期まで (収穫前30日前まで)
	アクシズMX 1キロ粒剤	1kg	湛水散布	移植後7日～ ノビエ4.0葉期 (収穫前45日前まで)